

研究構想シート		学校名	出雲市立朝陽小学校
		氏名	勝部 恵美
A 研究主題 友達とのかかわりを通して考えを深め、生き生きと表現する子どもの育成～問題解決型国語学習を通して～			
B 研究の目的 友達とのかかわりを通して考えを深め、自分の考えを生き生きと表現する子どもを育成するための授業作りについて国語科をとおして明らかにする。			
<p>C 子どもの実態</p> <p>本校は令和3年度に開校した新設校である。開校から3年間、まずは朝陽の子としての仲間づくりをしていく必要があった。そこで道徳科を中心として「人間関係づくり」「考え議論する道徳」について研究を進めてきた。</p> <p>その成果もあり、人前で堂々と発表したり、興味のあることに集中して考えたり実践したりできる子どもの姿が多くみられるようになった。</p> <p>一方で、自分の考えを積極的に話すことができる子は限られていたり、友達の意見をよく聞き、自分の考えと比較したり考えを広めたりする姿は少ない。</p> <p>また、興味のあることには集中して聞いたり考えたりすることができるが、興味の幅が狭いこと、興味を持続させることには課題があることが現状である。</p>		<p>D めざす子どもの姿</p> <p>○あきらめないで挑戦する子 ○才能を磨く子 ○人を大切にできる子</p> <p>・基礎的な知識・技能を身につけ生かす。 ・様々な角度から考え、よりよい答えを導き出す。 ・学んだことを生かし、未知の課題を発見して課題を組み立てなおす。 ・一人では分からない課題に、友達と協働して取り組む。 ・自分の考えや意見を、伝わるように表現する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>語り合いを通して考えを深め、生き生きと表現する子</p>	
<p>E 手立て・内容（研究仮説）</p> <p>問題解決型国語学習を取り入れた授業改善を行い、国語科を核とした意図的・計画的な体験や実践を重ねていけば、友達とのかかわりを通して考えを広げたり深めたりしながら、生き生きと表現することができるだろう。</p> <p>研究内容 職員研修、授業実践・研究協議を通して問題解決型国語学習を取り入れた授業作りを確立していく。</p> <p>（視点）今の学びを今後の学びにつなげることができる授業作りができていたか。</p> <p>①「めあて」の掲示の工夫 ○「『めあて』で凡庸的な力をつける」という意識をもつ。 ・～のときの気持ちを考えよう→情景描写から人物の心情を考えよう。</p> <p>②「内容の読み」に加え「読み方の学び」の獲得を狙った授業作りを行う。 ○スイッチ発問を使った問題解決型授業作り ・大造じいさんの残雪に対する気持ちを考えよう。 →大造じいさんが狩りに出かけた時間を比べて、残雪に対する気持ちを捉えよう。</p>			
<p>F 検証方法</p> <p>①児童への意識調査による評価（アンケート） 6、1月に、全学年で実施する。</p> <p>②全国、県、市の学力調査の結果による評価（研究委員会） ○8月 全国、出雲市学力調査の分析、改善案作成、意見交流 ○2月 島根県学力調査の分析、改善案作成、意見交流</p> <p>③教職員の児童観察による評価（アンケート）</p>			
<p>G 研究計画</p> <p>5月 研究委員会…児童の実態把握とその背景について全職員で共通理解を図る。 6月 研究委員会…研究構想の提案、職員研修・授業研究計画伝達 7月 職員研修…「国語科における凡庸的な力をつけるめあてのたてかたの工夫について」（出雲市教育委員会 荒瀬幸子先生） 職員研修…「見方・考え方が動く国語科の授業デザインについて」（和歌山信愛大学 小林 康宏教授） 8月 学力調査分析 9月～1月 授業研究・協議 2月 学力調査分析・アンケート 3月 実践収録作成</p>			